

VII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

小・中特研部会

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研究協議会及び第1回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会参加（6月1日）【オンライン】
- ② 第1回事務局会（6月5日）
- ③ 第1回理事会（6月29日）
- ④ 九州難聴言語障害教育研究会長崎大会に参加（8月3日から4日）第5分科会「連携」で小林市立小林小学校 三浦弘子教諭が発表
- ⑤ 第51回九州地区情緒障害教育研究会長崎大会に参加（8月23日）「LD/ADHD分科会」で宮崎市立広瀬小学校 白石千絵教諭が発表
- ⑥ 第57回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会（11月10日から11日）「作業学習・進路指導部会」で串間市立串間中学校 大岩本毅教諭が発表
- ⑦ 第2回事務局会（1月下旬）
- ⑧ 第2回理事会（2月20日）、研究集録「むすび」の発行（2月）
- ⑨ 監査（3月）

3 主な研究成果

(1) 成果

- 5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたため、対面での理事会を開催することができた。また、負担金を関係団体へ納金することができた。
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会では、串間市立串間中学校 大岩本毅教諭が、九州地区情緒障害教育研究会長崎大会では、宮崎市立広瀬小学校 白石千絵教諭が、九州難聴言語障害教育研究会長崎大会では、小林市立小林小学校 三浦弘子教諭が、それぞれ実践発表を行うことができた。
- コロナによる研究大会等のリモート開催で繰り越した運営費を、情緒部会の研修補助として活用することができた。

(2) 課題

- 年度初めに各地区での引継ぎがうまくできておらず、名簿作成等に時間がかかった。また、理事会での伝達事項が各地区に周知されず、何度も連絡をする必要があった。
- 各地区とも、負担金の財源に苦慮している。また、請求書や領収書の形式等が各地区によって異なるため、会計の対応が大変だった。
- 研究集録を冊子として作成・発行しているので、各学校での活用を呼びかけたい。

令和5年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

本年度は、コロナ禍から久しぶりに第1回目を赤江まつばら支援学校にて対面実施で行い、校内見学、学校概要説明、各校から出された課題に対する各校の取組状況の情報交換を行った。第2回を12月に会場を小林こすもす支援学校として、午前中に各学部見学、午後に第1回と同様取組状況等の情報交換を行う予定である。令和6年度は、各校でコロナ対策を踏まえながらも全校幼児児童による各行事の取組の再開を見据えた計画、授業時数等の教育課程編成、働き方改革の意見交換を行う予定である。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会を計画した。研究テーマ「これからの生徒指導の在り方～連携と改善」について、各校の課題等を集約し意見交換を行った。第1回は6月に対面にて実施した。第2回は1月に宮崎法務少年支援センターにて講義及び施設見学を通し課題解決を図る予定である。これからもミラタイム等を適宜活用し、即時に情報交換を行うことで連携を図り、共に課題を解決できるよう取り組んでいきたい。

(3) 保健主事・養護教諭部会

今年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、8月に明星視覚支援学校にて、数年ぶりに参集型での部会を実施した。協議では新型コロナウイルス感染症に関する取組をはじめ、各校からアンケートにて聞き取った議題や取組について情報交換を行い、共有することができた。5類移行後の感染症対策や学校保健計画の内容、修学旅行への看護師の帯同や医療的ケア生の行程の工夫や安全管理等について協議を深め、各校の今後の取組の参考とすることができた。

(4) 進路指導主事部会

本部会は、県立学校特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事(部会長)で構成されている。本年度の部会は、第1回目の開催を8月28日(月)に実施し、各学校の進路支援の取り組みについて情報交換を行った。特別支援教育課からも参加していただき、農福連携等の情報提供をいただいた。第2回目の部会は2月2日(金)に小林こすもす支援学校での開催を予定している。内容は、各学校の進路状況や進路指導上の成果や課題などについて協議を行い、次年度に役立てたい。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、第1回を7月25日に本校をホストにオンラインで開催し、給食感謝週間にて実施予定の内容や衛生管理について、物価高騰に対する対策等について協議した。第2回は、12月11日に延岡しろやま支援学校にて、調理場の見学や給食の試食、食に関する指導や各学校での衛生管理について情報共有・協議を行う予定である。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実を図っていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で21回を迎え、11月16日(木)より11月19日(日)まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催された。天気に恵まれ、1537名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画273点、立体82点、書道33点、写真39点、合計427点となり、幼稚部、小学部、中学部、高等部総勢408名の出品者数となった。また、今年も13校によるコラボ企画として、壁面全体を覆う大作を制作し、大変好評であった。

(7) 音楽科代表者部会

9月と12月に行った音楽代表者部会では、日南くろしお支援学校の授業提供や延岡しろやま支援学校高千穂校の実践報告を受け、多様な児童生徒ひとりひとりの実態に応じた表現活動やICTを活用した授業展開等について協議を行った。各校の取組に関する情報交換も積極的に行い、互いに学び合うことができた。また、他の研修会への参加報告、県高等学校教育研究会音楽部会との連携等についても情報を共有し、今後につながる話し合いができた。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は年5回の部会を計画した。第1回は研究の進め方についての協議を行い、宮崎県学校体育研究発表大会で発表する学習内容系統表【思考力、判断力、表現力等】の内容について検討を行った。第2回は明星視覚支援学校にてフロアバレーの実技を行った。第3回は特別支援学校体育連盟準備委員会の進捗状況を報告した。第4回は宮崎県学校体育研究発表大会と全国学校体育研究発表大会の報告や、ICTを活用した授業についての研究を行う予定である。第5回は次年度の研究についての協議や特別支援学校体育連盟準備委員会の報告を行う予定である。

(9) 家庭科代表者部会

今年度は、5月・7月・11月に事務局を中心とした打合せを行い、本年度の本部会の日程や内容の検討、第1回・第2回部会の役割分担や準備を行った。第1回部会は、8月2日に対面にてみなみのかげ支援学校で実施し、本年度のテーマの検討、実技講習「スーツの着こなし・マナーについて」、校内見学、各校での取組についての情報交換を行った。第2回部会は、12月8日にZOOMによるオンラインで実施、今年度のまとめ、来年度のテーマ確認、教材紹介、情報交換などを行った。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、清武せいりゅう支援学校を会場校(事務局3年目)とし、第1回目を7月に、第2回目を12月にオンラインにて実施した。第1回目は、「発達段階をふまえた自立活動とICT活用の理論と実践」に関する講義、事前アンケートを踏まえた各学校間の情報交換を行った。第2回目は、各学校の「自立活動×ICT活用実践事例」報告から情報共有を行い、協議と質疑応答にて学びを深めた。今後もより一層自立活動の指導の充実へと繋がる部会運営に努めていきたい。

(11) 情報教育代表者部会

第1回の部会を6月に小林こすもす支援学校にて参集型で実施した。各学校の現状や課題や取組について意見交換を行った。就学奨励費購入端末等が話題となった。第2回は宮崎県教育研修センターを会場として参集型で実施した。各参加者が情報端末を持ち寄ってMicrosoft Teamsの活用方法の情報共有を行ったり視覚入力装置の体験を行ったりする等、研修センターでの参集型部会の良さを生かした研修を行うことができた。